

アドバイザー派遣事業実施レポート

子どもの実態から考える自立活動の指導 ～子どもの主体的な動きを引き出すために～

- 1 日時 平成27年9月10日(木)
- 2 会場 鳥取県立皆生養護学校
- 3 講師 関西国際大学教授 中尾繁樹氏

特別支援教育に幅広く携わられている中尾繁樹先生に来ていただき、授業に関するアドバイスと講義をしていただいた。他校からも5名の参加があり、充実した会になった。

◎授業参観 小学部

- 筋緊張の入りやすい児童の座位姿勢について見ていただいた。あぐら座位の時に肩や首辺りに支援を行い、首が過伸展にならない位置を獲得できるようにすると、頭を自分でコントロールし、前方に手を出して上体を起こすために突っ張ろうとする動きにつながることを教えていただいた。また授業者が片手で支援できるようにすることで、座位をとる児童の横に位置し、児童の表情を見ながら、空いているもう片方の手で認知活動をさせることが可能になることについてもアドバイスをいただいた。

左手を口に持っていくことが多く、あぐら座位姿勢の保持のために手を使いにくい児童について、自力での安定した座位姿勢の保持の指導について見ていただいた。姿勢の重心がずれた時や手を口に持っていこうとした時にどう支援するかを具体的に教えていただき、短時間の指導の中で口から手を離し、床面に両手をついて姿勢を継続して保持する姿を見ることができた。

- 体幹を保持して安定した立位や座位の姿勢につながる指導を見ていただいた。対象児童の腹筋力や背筋力が弱く、足裏で踏ん張ることが難しいため安定した姿勢の保持がとりにくいことを教えていただいた。本児の好きなものを取り入れて意欲を高めながら、筋力等の弱い部分をどのように鍛えていくかを、背もたれのない箱型の椅子やキャンディーボールなどの教材を使用しながら具体的にアドバイスをいただいた。

◎授業見学 中学部

- 安定した姿勢での歩行を獲得するための指導の中で、生徒の自発的な動きを引き出す支援の仕方を教えていただいた。歩行の際に転倒の可能性のある生徒であるので、介助の仕方で前のめりになりやすい。歩行時の重心が下方へいくような手のつなぎ方や、肩を把持して上体を起こした姿勢で歩行するための介助の仕方などを実際に見せていただいた。また、臥位から座位、座位から立位への姿勢を変える動きの獲得に向け、動きを遊びの中にどう取り入れるかについて、具体的にアドバイスをいただいた。

◎授業参観 高等部

- 側わんのある生徒について、側わんの進行予防に有効な運動や日常生活で取り入れられる活動について授業を見ていただき、アドバイスをいただいた。肩関節を柔らかくするために、日常的に腕を上げて行う活動が有効であることや、立位時の重心が左足にあるので足を交互に動かしたり、アンバランスになっている腰や肩、頭などの位置を、本人がそれぞれの部位を意識しながら整えたりする必要があることを教えていただいた。また、姿勢と関連して左側にあるものを目で追うことが苦手であるので、首を回して左側のものを見る活動を取り入れると生活の中で自発的に首を回して左側のものを見ることにつながるとアドバイスをいただいた。
- 歩行にふらつきがあり、手首が回りにくく指での細やかな操作がしにくい生徒への指導について見ていただいた。かかとの踏みしめやつま先の上げ方、手首の動かし方や指先の使い方など活動をする際に必要なことが未学習または不十分であることを教えていただき、卒業後にセルフケアとして自分ででき

そんな活動を具体的に提示していただいた。この前後に細やかな操作につながる活動として、両手を使って粘土をおにぎりの形に握っていく活動に取り組んだが、セルフケアの活動後には初めよりもおにぎりの形が整い、生徒自身も自分の手の使い方の変化に気づくことができた。

講義 「肢体不自由のある子どもたちの授業」

【授業で】

子どもが安心する環境。教師の教育的配慮が必要である。そのためにも、実態把握が大切である。授業者は、教育的意図を持った関わりをし、共感できる関係が子どもの輝く授業である。発達支援を行うには、教材準備「何を、いつ、どこで、どのような方法で」が必要である。

【子どもから学びはじめる】

子どもの重度・重複化・多様化の進行により、教育内容及び方法も複雑化・多様化している。「子どもから学びはじめる」「子どもから学び続ける」姿勢が大切である。医療的ケアの必要な子どもが増えているので、看護師の協同が欠かせない。

【子どもの反応を読み取り授業に活かす】

子どもの反応を読み取る力は、自然に身につくものではなく、知ろうとする努力が大切である。特に障がいの程度が重度になると、反応が微弱になるので情報収集が必要である。

【子どもの興味・関心を授業に活かす】

興味・関心のあることが集中・意欲につながることを考えて、授業を組んでいく。

【重度・重複障がいの学習特性：意欲を持ちにくい】

意欲の条件とは、

- ①「やりたい」と思える
- ②「できそう」と思える
- ③「失敗したくない」と思う
- ④達成感を感じる

【子どもをみる】

目でみるとは、観察力、知識力、努力、総合力

手でみるとは、感性（努力）、柔軟性

こころでみるとは、共感、とけあい、受け入れ

【基本的な身体の動かし方】 実践しよう

基本編：手を通して伝える

手を肩に当てる・・・あたたかさ、感情を伝える、握り合って

※ふれ合う時には、言葉をかけて、コミュニケーションをとることが大切である。